

新刊紹介

MACKEY, B. E. and TAYLOR, A. R.: *Chondrus crispus and carrageenan, a bibliography (1972-1978)*. Proceedings of the Nova Scotian Institute of Science Vol. 29, Part 3. pp. 237-312. 1979.

大西洋における重要な有用海藻である *Chondrus crispus* については、その生物学的な面だけでなく、それから抽出された carrageenan について化学・薬学・医学領域での研究も広汎に進められている。*Chondrus* の生物学・生化学的な面に関しては、既に HARVEY, M. J. and MCLACHLAN, J. の編集による *Chondrus crispus* という題のシンポジウム記録が Proceedings of the Nova Scotian Institute of Science, volume 27, supplement として 1973 年に出版されている (藻類 21 巻 114 頁参照)。この出版物の中に Evelyn M. CAMPBELL の編集によって Bibliography of *Chondrus crispus* STACKHOUSE という題の文献集が含められており、その時までの生物学・化学関係の論文が集められている。その後 1978 年までに発表された関係論文を集録した文献集が上記のものである。今回はその収録範囲を拡げて、薬学・医学まで実に広範囲の論文をリストしてある。日本の雑誌も「藻類」は勿論のこと「応用薬理」、「日本農芸化学会誌」、「食品衛生学雑誌」といった雑誌の日本語論文も含まれていることからその範囲がうかがえよう。76 頁で約 1,500 のタイトルが載せられてあって、各方面の研究者に参考となる点が多いと思われる。下記のとこに申込みば入手することができる。価格 \$15.00。 (吉田 忠生)

Nova Scotian Institute of Science, Science Library, Dalhousie University, Halifax, Nova Scotia, Canada B3H 4J3

KRAUSS, R. W. (ed.) **The Marine Plant Biomass of the Pacific Northwest Coast: A Potential Economic Resource**. 397 pp. Oregon State University Press. U. S. \$16.60 (incl. pstg.). 1977.

近年、欧米をはじめとして、世界各地で人類のための未利用資源として海藻が注目されてきている。そのあるものは海中または屋内での増養殖実験が盛んに実施されてきている。本書はそのような状況に応じて開催されたシンポジウムから産み出された。

内容は 21 章にわかれ、海藻増養殖および海洋学関係を主体としている。付随的に、地質・地形、海水の性質、藻体成分と応用、海洋土木工学、漁業のための海面・海底の占有 (もちろん北米太平洋岸の) の法律論の章が設けられている。

中心的に扱われている、海藻増殖と生物量の各章で比較的くわしく論述されている属は次のようである：*Chondrus, Eucheuma, Gracilaria, Gigartina, Iridaea, Macrocystis, Neoagardhiella*。

私自身の興味をひかれたのは、DOTY 教授による太平洋諸島での *Eucheuma* 養殖の導入の紹介であった。我国の水産植物研究者には、系統的に海藻増養殖の研究を続けている例が多いとはいえないのが残念である。伝統を發展させたいものである。

本書全体を通して、邦人の業績の引用は多く見られる。タイプライター原稿の写真製版法による印刷のためか、いくつかの図で細線が途切れて見にくいものがある。学名に限って言えば、誤綴が散見されるほかに、索引に漏れているものが少なくない。

なお、個人注文の宛先は：

Oregon State University Press, Oregon State University, 101 Waldo Hall, Corvallis, Oregon 97331, U. S. A.

郵便外為で前払い制であった。

(赤塚伊三武)